

とうべつ

手にとって ^{ぐ~っと}good 身近に

議会だより



No.207

令和3年12月1日発行

CONTENTS

8月臨時会・9月定例会

新町長の所信表明に対する代表質問 p.2

- ・当別町の課題克服に向けて！
- ・基幹産業の農業の持続的発展を！
- ・雪害対策で住み続けられる町を！
- ・誰一人取り残されない対策を！

予算の使われ方を厳しくチェック p.6

令和2年度各会計決算審査特別委員会

6人の議員が町の考えを質す p.13

- ・安心・安全の当別町に！！
- ・男女共同参画基本計画の策定は
- ・町民参加の図書館運営を
- ・選挙中、後藤正洋氏は宮司だった
- ・米価下落と干ばつの影響、対策は
- ・太美地区に新庁舎の建設を



出番を待つ除雪車両(当別町機械センター)

代表質問

会派清新 山田明 議員

質問の
ねらい

当別町の課題克服に向けて！

現状、当別町はコロナ禍で町全体が閉塞感に覆われている。今後4年間、子どもから高齢者まで人生100年時代を見据え、「笑顔あふれるデジタル田園都市 当別町」の実現に向けて取り組むとあるが、町は課題

が山積している。除排雪体制の問題、役場新庁舎の建設、町内の医院の閉院による住民の不安解消への対策等、財源の安定確保と共に、これらの喫緊の課題克服に向けてどのように取り組む考えか伺う。

ここが
聞きたい

財政基盤の安定に向けて

問

コロナ禍により町税の大幅な減収が予想される。財政基盤の安定強化に向けて、ふるさと納税の強化を図ると捉えているが、一歩踏み込んだ「企業版ふるさと納税」にも取り組む考えはないか。

答

すでに必要な計画を内閣府へ申請し、認定を受けている。大きなメリットが考えられるので、町外企業の理解と支援を受けられるよう取り組み、財政基盤強化に努める。

ここが
聞きたい

役場新庁舎の建て替えは

問

PFI方式^{※1}やリース方式^{※2}など、財政負担軽減や事業期間短縮等を考慮して検討作業中と捉えているが、現在、構想案はどの程度まとめられ、具体的な報告はいつ頃になるのか。

答

9月末をめどに基本構想案をとりまとめ、精査の上、議会や町民に示したい。次の基本計画策定を進める中では、議員や町民から意見聴取等を行い、必要な事項は12月議会で提案したい。

ここが
聞きたい

除排雪体制の再構築は

問

昨年の反省を踏まえ、今年度の除排雪体制はどのように考えているか。作業員や機材や堆積場の確保、町内会や環境組合との連携等、柔軟な協力体制構築に向け、どのような体制で臨むのか。

答

除排雪連絡協議会^{※3}でいただいた多くの声を踏まえ、大雪時の夜間排雪の試行、除排雪作業班の再構築、町内会への小型除雪機貸与の施行等を行い、除排雪作業の円滑化、効率化を図っていく。



排雪作業の様子

ここが
聞きたい

医療体制及び医院の誘致は

問

8月末をもって町内の医療機関の1つが閉院となった。多くの町民から不安の声が出ている。町として今後どのような医療体制を構築するのか。また、医療機関の誘致は進んでいるのか。

答

誘致について、道内の医療や介護の法人を訪ねて申し入れしている状況。今後は、町民が安心して暮らせるよう在宅医療体制の確保が必要なため、医療機関誘致、医師確保に引き続き取り組む。

ここが
聞きたい

行政サービスの向上は

問

役場職員のさらなる資質及び行政サービスの向上に向けて、具体的にどのように取り組むのか。

答

指導能力研修や法令実務研修などの各種研修等の実施、北海道などとの

人事交流を積極的に活用していく。また、デジタル田園都市の実現には、全ての職員において、デジタルリテラシー、ITスキルの向上を図ることが重要であるので、しっかり取り組んでいきたい。

※1 PFI…民間の資金や能力を活用して公共事業を行うこと。

※2 リース方式…民間が資金調達から、公共施設の設計や建設、運営等までトータルで行い、その対価をリース料として支払う契約方法。

※3 当別町除排雪連絡協議会…町民、除雪業者、町の三者の協働により、冬期の道路環境向上を図るための組織

代表質問 会派爽新 古谷 陽一 議員

質問の
ねらい

基幹産業の農業の持続的発展を！

当別町の基幹産業である農業を今後も後継者が引き継いでいくためには、スマート農業の推進と基盤の整備が必要であり、農業用施設の老朽化対策、鳥獣害の対策について質した。また、町の宝である「子どもたち」

をしっかり育てていくことや、大雪の経験から除排雪体制をどう再構築するか質した。また、令和4年4月の「とうべつ学園」開校に向けた具体的な取り組みについて質した。



ここが
聞きたい

農地の整備とスマート農業

問

開拓当初から農業を基幹産業として発展。後継者が安心して農業を引き継ぐためには、農地の基盤整備やスマート農業のための通信インフラの整備が必要。町はどのように関わっていくのか。

答

通信インフラをさらに強化するため、農村部の光回線整備を進めているので、スマート農業へのきっかけとしてほしい。農地基盤整備も土地改良区などと連携して計画的に進めていく。

ここが
聞きたい

鳥獣被害の対策は

問

鳥獣の行動範囲が拡大し、年々個体数が増加。高齢化によりハンターも減少。農業者が安心して営農ができるよう、そして、市街地の住民が安全な暮らしができるよう早めの対策が必要では。

答

ハンターの育成や確保、デジタル技術を活用した捕獲について研究を進め、対策を強化していく。ハンター減少や鳥獣害対策の予算確保は全国的な問題。国に対策を講じるよう要望していく。

ここが
聞きたい

「子どもたち」は町の宝

問

子どもの成長に応じたきめ細かな各施策について、どのような基準で優先順位を決めるのか。また、子育て世帯がどのような支援や環境が必要なのか、アンケート等で情報収集を行う考えは。

答

経済負担軽減となる施策を中心に必要な支援を見極めて判断する。情報収集は、子育てに関する計画策定時の他、子どもの健診等でのアンケートや声を活用する等手法にこだわらず努めていく。

ここが
聞きたい

除排雪体制の強化を！

問

昨シーズンは大変な大雪となり、800件にも及ぶ苦情が殺到した。除排雪は町民の生活に直結するものであり、非常に重要な案件。除排雪体制の強化、再構築についての考えは。

答

昨シーズンの教訓を生かし、小型除雪機の町内会貸し出し、夜間排雪作業の試行、除雪班や排雪班の再構築、太美地区の排雪ローテーション見直し等、新たな除排雪の仕組みに取り組んでいく。



とうべつ学園建設工事現場（下川町）

ここが
聞きたい

「とうべつ学園」の開校

問

令和4年4月「とうべつ学園」が開校する。ICTの積極的活用や、一貫教育の魅力により子育て世帯の転入を期待しているとのことだが、今後どのような取り組みを行っていくのか。

答

地域と共に児童生徒にデジタル社会を生き抜く力を育成していく。また、一貫教育により、より良い教育環境を整え、他のまちと差別化を図り、子育て世帯の転入につなげていく。



代表質問 会派緑風会 秋場 信一 議員

質問の
ねらい

雪害対策で住み続けられる町を！

所信表明では、除排雪対策と役場庁舎の建て替えについて具体的な方針が示された。特に今後の除排雪については町民の最大の関心事と捉え、3月議会より踏み込んで災害対策の視点で伺った。新庁舎について

は、場所の条件や施設機能など構想から計画までの合意プロセスについて伺った。また、とうべつ学園を核とした人口獲得策について、スクールバスのインセンティブや将来の太美地区への新設校について伺った。

ここが
聞きたい

大雪時の危機管理対策は

問

昨年のような災害級の大雪は今後も予想される。住民の不安をなくすには地震や台風や水害などと同様の危機管理が必要と考えるが、そのような認識と体制は持っているか。

答

災害同様の高い危機意識を持って道路管理に努めているが、道路情報の発信など注意喚起を併せて行うことが重要。国道や道道管理者、警察、防災部局と連携を密にし、安全対策を図っていく。



雪に埋もれた末広団地（本人提供）

ここが
聞きたい

昨年の教訓は活かされるか

問

大雪時の除排雪について、新しい手法はあるのか。また、従来の体制における課題を解決するため、当別環境整備協同組合以外との連携も必要とのことだが、どのような連携が必要なのか。

答

新しい方法として、大雪時の夜間排雪を試行的に進めていく。また、当別環境整備協同組合以外との連携については、体制強化を進めるにあたって重要であるので、引き続き検討していく。

ここが
聞きたい

新庁舎はいつどこに

問

候補地の選択には何が優先されるのか。また、建設場所の決定プロセスにおける議会との関わりについて、どのタイミングで、どのような提案がされるのか。

答

9月末頃にまとめる基本構想案をもって議会にお示しできると考える。各候補地のメリット、デメリットは現在整理しているが、防災上、早期建設が求められるため、町有地活用が基本となる。

ここが
聞きたい

教育を柱に移住促進を図る

問

とうべつ学園開校を好機と捉え、若い世代の人口獲得の取り組みとして、小学校1年生から4年生の児童が、安心して登下校できるようにスクールバスで送迎を行うてはどうか。

答

とうべつ学園が開校すると一部児童の通学距離が遠くなるので、距離や時間、安全確保、体力面など低学年への配慮は必要。地域交通の在り方として、スクールバスも含め総合的に考えていく。

ここが
聞きたい

太美の義務教育学校新設は

問

太美地区の一体型義務教育学校建設について、前町長と同じ考えで、人口の増減に関わらず進めていくのか。

答

前町長と同じ考えだが、まちづくりや西当別地区の開発の動向を注視し、人口推移等を見極めながら判断しなければならない。

【その他の主な質問項目】

当別町除排雪連絡協議会から出た解決策

代表質問 会派公明 五十嵐 信子 議員



次のページは

令和2年度決算審査 決算と施策の成果について説明と質疑が行われました。

質問のねらい

誰一人取り残されない対策を！

町民にとって住みよい環境づくりを構築していくためには、お互いを尊重しあい、支えあい、意識改革をしていくことが必要である。風通しを良くして、町民へ分かりやすい発信をしていくことが重要。町民に寄

り添って施策に取り組むべきと質した。今後のデジタル技術の導入によって、行政上の各種申請・交付の手続きも大きく変化。その恩恵を誰もが受けられるよう環境整備に努めるべきと質した。

ここが聞きたい

町民との良い信頼関係を

問 所信表明で掲げた「ハートフル・ファースト」は、町民と真摯に向き合い、一人ひとりの声を拾うハートフルな関係を築くことが重要。町民にどのような発信をして絆を深めていくのか。

答 人と人との絆が深まるよう意識して施策を展開すべき、と掲げたものであり、施策実施の際、意識している内容が伝わるようコミュニケーションを取り、丁寧な情報発信に努めていく。

ここが聞きたい

安心できる在宅医療体制を

問 担い手となる医師、看護師、介護職員はまだまだ不足しており、安心して在宅医療を受けられる体制は十分には整備されていないが、どのような多職種連携や人材育成を展開していくのか。

答 医療・介護の多職種の方が持つ専門性を結び付け、関係機関との情報交換、処遇困難事例の対応検討を行い、多職種との連携と併せて知識や能力の向上を図っていく。

ここが聞きたい

常に寄り添う福祉の成熟へ

問 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられるように、どのような取り組みを行い、当別町らしい常に寄り添う福祉を成熟させていくのか。

答 町では身近な相談ができる体制づくりに努めており、地域包括支援センターがその中心を担っている。最近は複雑な相談が多いため、体制強化や民生委員等の協力を得て福祉の成熟に繋げたい。

ここが聞きたい

情報格差の解消を！

問 コロナワクチン接種予約の際、高齢者は戸惑いと不安を抱えていた。行政のデジタル化で高齢者が不便を感じないよう情報格差解消が必要。身近な場所で端末に触れる機会を持つべきでは。

答 高齢者向けスマホ教室を開催し、デジタル端末を身近に感じてもらう場を創出したい。また、子どもが高齢者に教えるといった多世代交流により福祉につながる仕組みも構築していきたい。

ここが聞きたい

マイナンバーカードの促進

問 マイナンバーカードを積極的に取得してもらうため、具体的にどのような方法で、高齢者に分かりやすい、利用しやすいデジタルサービスを提供していくのか。

答 今までも写真撮影から交付申請までのお手伝い、夜間窓口開設、限定郵便による配送等を実施。これらの周知の強化や交付申請サポート強化期間の実施等、さらなる取得促進を図っていく。



マイナンバーカード見本 (総務省提供)